

琉球王国時代、東南アジアと中国・日本を結ぶ中継貿易地として多くの外国船が寄港し、人やもの、文化の交流の拠点として栄えた那覇のまち。現在も観光を目的とした多くの外国人客が訪れています。那覇港への外国クルーズ船の寄港数は、全国でもトップクラスを誇り、今も昔と変わらぬ、世界に開かれた港として輝いています。



パナマ船籍「Voyager of The seas (ボイジャーオブザシーズ)」H24.7.5入港

全国トップクラスの寄港数

沖縄は台湾から620km、上海から8220kmと、外国のクルーズ船の寄港に最適な位置にあり、県内の外国人観光客(H22年は約28万人)の約半分が海路を利用してきます。那覇港には、台湾の基隆(キールン)港を出発する定期船をはじめ、中国、シンガポール、オーストラリアなどの外国クルーズ船が訪れ、その数は、全国トップクラスの実績を誇っています(表1)。昨年度は、東日本大震災の影響により全国的に寄港が減っているものの、今年度は盛り返す傾向にあります。平成24年度は、日本船籍も合わせると那覇港入港は80回を超え、過去5年間で最高となる事が予想されています(表2)。

那覇港には、これまで貨物船と併用していた岸壁とは別に、平成21年にクルーズ船専用の岸壁(通称「若狭バース」)が整備され、より安全かつ長時間の滞在ができるようになりました。また、現在旅客ターミナルビルも建設中で、クルーズ客にとって、さらに利用しやすい港へと整備が進められています。

過去5年間の全国寄港数(表1)

	1位	2位	3位
H19	長崎(37)	那覇(26)	石垣(25)
H20	那覇(51)	石垣(37)	鹿児島(30)
H21	那覇(50)	長崎(45)	石垣(32)
H22	博多(61)	那覇(46)	鹿児島(46)
H23	石垣(42)	那覇(37)	博多(26)

那覇港へのクルーズ船寄港実績(表2)



クルーズ船の寄港には、全国の自治体や観光関係者が高い関心を寄せています。寄港すると、1000人以上の旅客や船員が急に観光やショッピングを行うため、大きな経済効果をもたらしているからです。九州経済協会の調査によると、1寄港あたり(乗客約1700人)約4400万円の経済波及効果が生じると算出されています。

クルーズ船の経済効果

観光課 ☎862・3276

クルーズ船の寄港には、全国の自治体や観光関係者が高い関心を寄せています。寄港すると、1000人以上の旅客や船員が急に観光やショッピングを行うため、大きな経済効果をもたらしているからです。九州経済協会の調査によると、1寄港あたり(乗客約1700人)約4400万円の経済波及効果が生じると算出されています。

那覇港から、徒歩約15分の距離には、国際通りや平和通りなど、観光客や地元客が賑わう中心市街地があります。市では、寄港した外国クルーズ客を市内に呼び込むため、若狭バースから中心市街地に至る道々に、外国語の誘導案内板や周辺地図を設置しています。また多言語表記の地図や、指差しで簡単な質問のできるファイルを配布したり、那覇市観光協会が商店街の方々に対象に無料で外国語講座を開催するなど、外国人観光客へのサービス向上に取り組んでいます。さらに、中心市街地に賑わいを生みだす屋台村をつくる計画もしています。そのほか、大型ビジョンの設置や、主要観光スポットを無料でインターネットに接続できる「公衆無線LAN環境(Wi-Fiスポット)」のエリアとすることで、タイムリーかつ簡単に、観光情報、店舗情報、イベント情報などが入手できるような整備も進めています。このように市では、今後も外国人客を含めた観光客のニーズに応えられるような環境整備を行い、新しい那覇の魅力を発信していくよう取り組んでいます。

市内にクルーズ客を呼び込むために

商店街(雑貨店、服飾店)の声
 港に船が入ると、たくさんの外国人観光客がやってきます。店内には入港予定表を貼っていつでも把握できるようにしています。外国人客は、日本人の敵とだいたい同じくらいいて、大事なお客様になっています。

商店街(ドラッグストア)の声
 日本の薬は外国の方に人気なので、港に船が着くと大勢の外国人客が訪れて、まとめ買いをしてくれます。購入額はだいたい1人1万円~3万円程度で、中には10万円分ほど買われる方もいます。

那覇港の場合は、最近では2000人以上の大型船も多く、今年の7月から8月にかけては、超大型船の「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」(乗客定員3840人)が4回寄港しています。このことから、クルーズ船の寄港は、本市の経済活性化にも大きく寄与しているものと推測されます。

活動内容はどのようなものか?
 講演会で、みなさまに腎臓病に関する正しい知識を持ってもらい、腎臓病にならないための予防啓発を行うなど、病気の早期発見、早期治療ができる健康診断の大切さを伝える活動にも取り組んでいます。

また、腎臓病に関する相談事業、患者の自立を支援する事業なども行っています。

さらに、市が行う特定健診を自治会ごとで行っている「まちかど健診のお手伝い」も行っています。

現在沖縄県では、透析患者が4200人で、全国平均より高い割合で増えています。

糖尿病や高血圧や高脂質異常などが悪化すると腎臓病になり透析治療が必要になります。で

Q 活動を始めたきっかけはなんですか?
 医師から、透析治療が必要と言われた時、この事実を受け入れることができずに、引きこもってばかりいました。

しかし、市民協働大学で勉強会をしていく中で、自分も人のために何かできないかと考えました。そこで、講演会などを通して自分の体験談を話し、少しでも透析患者を減らしていきたいと思うようになったのがきっかけです。

Q 今後の活動計画は?
 一度悪くなった腎臓は元には戻りません。そのため、臓器移植も選択肢としてあげられますが、多くの方に臓器移植の理解を深めてもらうために、10月を臓器移植普及推進月間としています。

県が実施している街頭キャンペーンに参加し、臓器提供の意思表示カードへの意思表示記入と携帯をお願する呼びかけを行う予定です。

また、11月には、第2回目の透析患者が語る「慢性腎臓病(CKD)を知る県民講座」を行い、慢性腎臓病について広く周知し、定期健診での早期発見・早期治療を促すことを目的に、医師や透析治療中の患者によるパネルディスカッションを行います。



第19回は、沖縄県腎臓病協議会事務局長の宮城輝(みやき)さんです。

Q 活動を始めたきっかけはなんですか?
 医師から、透析治療が必要と言われた時、この事実を受け入れることができずに、引きこもってばかりいました。

しかし、市民協働大学で勉強会をしていく中で、自分も人のために何かできないかと考えました。そこで、講演会などを通して自分の体験談を話し、少しでも透析患者を減らしていきたいと思うようになったのがきっかけです。

Q 今後の活動計画は?
 一度悪くなった腎臓は元には戻りません。そのため、臓器移植も選択肢としてあげられますが、多くの方に臓器移植の理解を深めてもらうために、10月を臓器移植普及推進月間としています。

県が実施している街頭キャンペーンに参加し、臓器提供の意思表示カードへの意思表示記入と携帯をお願する呼びかけを行う予定です。

また、11月には、第2回目の透析患者が語る「慢性腎臓病(CKD)を知る県民講座」を行い、慢性腎臓病について広く周知し、定期健診での早期発見・早期治療を促すことを目的に、医師や透析治療中の患者によるパネルディスカッションを行います。

協働さん
 いらっしやい!

市民・事業者・行政が支え合う協働のまちづくりに取り組む団体、個人を紹介します。

第19回 沖縄県腎臓病協議会
 ☎887-0201

お問い合わせ
 まちづくり協働推進課
 ☎861-3846